



愛川ふれあいの村 今月の風景

## 2024年7月 自然のたより

梅雨とは名ばかりで、特に関東地方はここ数日、各地で観測史上最高を更新するほどの猛烈な暑さの日が続いています。そんな猛暑の中、昨年からのエアコン工事が終了し、7月1日から使用できるようになりました。熱帯夜の中でも快適に過ごせると思います。村では去年より二ヶ月も早くマヤランが咲いたり、様々なキノコがあっちこちに顔を出したりと例年と違う様子です。厳しい環境の中でたくましく生きる生き物たちを見て人間も頑張らなくてはと思う、間もなく梅雨明けの頃です。(高梨)



神奈川県のお花ヤマユリ



樹液を吸うオオムラサキ



ホトトギス鳴く



マヤラン



美しいスイレン



アキノタムラソウ



ヤナギマツタケ



キバラヘリカメムシ



羽化したアブラゼミ



オオシオカラトンボ



コシアキトンボ



オオゴマダラエダシャク



ウグイス



ヒグラシ



村で生まれたヒキガエル

## トピックス ★入道雲★

夏が来るとよく見られる「入道雲」。雲の形が力こぶのある、体の大きなお坊さん、入道に似ていることからその名がついたそうです。入道雲の広がり数は数km～数十km、高さは10kmを超えます。気象用語では「積乱雲」と呼ばれ、雷や激しい雨を降らせませす。とても大きなお坊さんが雷を落としたり、激しい雨を降らせたりしている姿を想像すると、意地が悪いように思えてきますね。

雲は、上昇気流によって生まれます。空気が上昇すると冷やされ、水滴や氷になります。これらが上空の空気に浮かぶことで雲になるそうです。入道雲が夏に多い理由は、夏の強い日差しによって地面近くの湿った空気が勢いよく上昇して雲になるため。とても蒸し暑く、風が弱い日によく発生します。

入道雲を見ると、夏が来た、といつも心がわくわくします。雷や大雨の前兆だとしても、わくわくを感じずにはいられない。なぜなのか、自分でも分かりませんが、入道雲がよく見られる夏に楽しい思い出がたくさんあるからなのかもしれません。先日の夕方、空を見上げると、私にとって今年初めての入道雲を見つけました。青空に真っ白の入道雲、というイメージが強かったのですが、夕日に照らされてパステルカラーのように色づいた入道雲も綺麗なものと感じました。今年の夏も、みなさんにとって楽しい思い出がたくさんできる夏になりますように。(石川)



## 生き物 ★ノコギリクワガタ★

みなさんは夏の生き物と言ったら何を思い浮かべますか？私は真っ先にクワガタを思い浮かべてしまいます。それほど個人的に好きな生き物になります。

本格的に気温も高くなり、生き物たちも活発になってきて、特に昆虫をよく目にするようになりました。この写真は先日ふれあいの村の中で出会ったノコギリクワガタです。やはりなんといってもカッコいい。クワガタは顎が特徴的です。個体によって形が微妙に変わってきます。ノコギリクワガタはその形の変化が分かりやすい種です。顎が小さいものは『原歯型』、大きいものは『長歯型』と呼ばれます。長歯型の中でもさらに大きいものは『水牛』という愛称で呼ばれたりします。ただ観察するだけではなく、同じ種でも他の個体と比較してみると新たな発見が生まれるかもしれません。様々な角度から観察してください。私もこの夏は童心に返ってクワガタをたくさん探したいと思います。(小熊)



## 旬 ★茗荷★

茗荷(みょうが)と言えば、暑い夏のメニュー「そうめん・冷や麦・冷ややっこ等」の薬味として大活躍。シャキシャキとした食感、独特の香りが食欲を促してくれます。食欲のない時にさっぱりと頂くことができるので、ついつい食べ過ぎることも…

茗荷をたくさん食べすぎると昔から物忘れがひどくなるといわれた事ありませんか？それは迷信でそんなことはありません。ただ、茗荷には様々な成分があります。その中の一つ食物繊維があり、食物繊維は腸内の環境を整えて、便秘の解消にもなります。しかし、食べ過ぎると便がかえって硬くなり腹痛の原因となります。食べ過ぎには注意しましょう。

茗荷は、夏バテに効果があるといわれている食材です。様々な料理に合わせ、この暑い夏を乗り切りましょう。(菅原)



ニイニゼミの命は幼虫の期間を入れて二年～四年と言われている。ほとんどの期間は幼虫で過ごしている。夏の夕暮れに神秘的な羽化をした成虫は白っぽく軟らかい羽をしているが、色も変わり羽も固くなると飛び立つ準備をする。苦勞を乗り越えたねというように抜け殻に手を添えると「ありがと」と飛んで行った。幸あれと見守りたい。(吉田)

来月の見どころ  
ニイニゼミの羽化  
早朝からニイニゼミの声が聞こえてくる。「チーチッチッチ」と心に沁み込むような涼しげな声が印象的だ。「カナカナ」ヒグラシの声も朝夕聞こえる。セミの命は1週間と言われるが、実際は2週間ぐらい生きていくようだ。ふれあいの村で十月の終わりにアブラゼミの声を聞いたことがあるが、これは遅く生まれたのか、長生きしたのか不明である。「閑さや岩にしみいる蝉の声」芭蕉  
厚木から横手へのリレーマラソンを行った事があったが、山形県の立石寺に立ち寄った時にこの句碑を見た。立石寺の石段に立ち耳を澄ますと「チー」としずかな声が聞こえてくるような気がした。この句に相應しいセミはニイニゼミに違いないと思った。